

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400091		
法人名	社会福祉法人 大須賀苑		
事業所名	グループホーム 野楽里 (西の里)		
所在地	静岡県掛川市大淵12680-1		
自己評価作成日	平成30年1月16日	評価結果市町村受理日	平成30年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2297400091-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者と共に食事作りや洗濯干し等、一緒に行い生活している。 利用者信頼関係が築け家族への連絡を密に行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日差しが足元に優しく注ぎ、雨だれが落ちる様子も眺めることができるよう設計された和モダンな造りで、大変落ち着く空間が在る事業所です。リビングから見える窓枠からは、以前には天然記念物の蓮の葉も生息していたとの中新井池が一望でき、舞い降りる鳥の観察も楽しいことが覗えます。職員はおやつ、行事、掃除と担当を持つことになっていますが個別ケアの係が進んでいなかったり、全体会議の実施が中断していたりと、開設初年度の産みの苦しみもあるなか、「できていないこと」に真摯に向き合い、省みる謙虚さと朗らかに突き進むプラス思考があり、今後の前進が大変楽しみです。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症があっても穏やかに安定した生活を送れる」ように「ともに時間を過ごす事で利用者の思いを感じることができる」という目標掲げている。文書として職員には配った。ともに過ごすよう心掛け利用者の声を拾うようにしている。理念・目標の浸透は足りないと思う	各職員に今回の自己評価をおこなってもらい「職員にとって理念が未だ確かなものとなっていない」ということが解り、ユニット会議などで振り返ることもなかったことを反省する機会となりました。	法人理念を掲示によって目に触れるようにしたり、会議で振り返りの時間を設けたり等、浸透への取組みがあることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の慰問、併設の保育園児との交流、福祉委員の運営推進会議の出席はある。地域とのつながり、施設から地域への発信はなく今後の課題である	ハーモニカ、手品のボランティアが訪れるほか、おおぶち保育園の運動会参観や事業所の夏祭り、事業所運動会での園児交流と、開所1年としては地域と関わってはいますが、防災訓練等は申込みが遅れて参加できずにいます。	どんど焼きや朝市といったその地区ならではの行事を予め入手し、事業所の年間計画に組み込むことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練時、運営推進委員の方に見学はしてもらった。地域貢献の取り組みがなかった。地域とのつながりほぼなく課題である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、実績報告・法人としての感染症対策の取り組み、防災に関する事などを報告しご意見をいただいている。現場への報告ができていない	他市町の特別養護老人ホーム施設長が見識者枠で出席くださるほか、大淵地区福祉委員長、ワンストップの役割を担う「大東ふくしあ」からも職員が足を運んでいて、多様な人材に支えられて隔月開催が叶っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が事業所連絡会と部会、グループホームの研修に参加した。市の方には運営推進会議に参加してもらっている	運営推進会議には市健康長寿課だけでなく、大須賀と大東の地域包括支援センターからも其々出席してもらえ、日頃から支援を得ています。一方、地域密着型施設としては昨年8月「掛川市家族会支援事業 施設見学会」を受入れて行政に協力しています。	市役所に運営推進会議の案内を出せてはいますが、欠席があった時議事録を渡して切れ間ができないようにすると、なおよいと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県に身体拘束ゼロ宣言している。法人の研修に参加できなかった。身体拘束にならないよう不安なときは職員に確認している。スピーチロックにならないよう心掛けている	本体(特別養護老人ホーム)から異動してきた職員は熟知しているものの、全体となると知っていることに差があるのは否めません。講師を招いて腰痛体操教室を開催したり、安全衛生委員会が昨年秋からリフレッシュ体操の場を設け、職員のストレスフリーに配慮した取組みがあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修に参加できなかった。注意不足はある。言葉の暴力に聞こえる時があるが注意できないこともある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会していない。言葉としては聞いたことがあるが具体的に分からない職員が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身元引受人に重要事項の説明をし、理解していただいで契約としている。かかわらない職員は仕組みが分からない人もいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、担当がいれば担当のほうから声をかけ情報共有している。家族の要望や意見を聞いた後、反映されているか確かではない。意見箱を設置していない	法人のアンケートに「説明を受けてもわからないことがある」といった内容があったことも含み、「サービス担当者会議に家族も着席してもらおう」ということになり、やってみたら「いいね、今後も続けよう」と発展しており、家族とのコミュニケーションが進んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ではないがユニット会議の実施。	開設からユニット会議は毎月1回実施していますが合同では年間で2回と、時間を作るのが難しい状況にあります。運営もやっと落ち着いてきたことで「会議も定期開催したい」「個人面談もしたい」と、目標に定めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修参加。リフレッシュ体操への参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は掛川市が開催する事業所連絡会・部会に参加している。実践者研修に1名参加。他の職員は実施できなかった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴などを記入していただきケアに活かしたりご本人の話を傾聴、受容し安心できる声掛けを実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時や電話などで報告したり確認している。要望があったら、どのようにしていくか話し合いをしている。家での介護に対して、ねぎらいの言葉を掛けてをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかり行うことで見極めができています。利用者の状況を把握して家族に提案しサービスを実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場で、できる事・できないことを見極め、個々が各々の役割を持ち、お互い協力しながら一緒に生活しているという状況になるよう努めている。家事、散歩、買い物、居室掃除等		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を報告したり、請求書の中に写真を入れたりして、ここでの生活を知ってもらうよう心掛けている。誕生日の過ごし方は家族と時間が作れるよう家族に相談している。家族とご本人の関係が薄れないよう定期受診は家族に行ってもらよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から使ってるもの、なじみの場所への買い物の付き添いをして。又かわりのあった方が面会に来て下さる。選挙への参加。全員ができていくわけではなく一部にしかできていない。	1日おきに来訪がある家族がいるものの馴染みの人や家族の面会は多いとは言えませんが、定期の医療受診を家族にお願いしていることで面会率を上げることが叶っています。新聞に目を通したり、食器の後片付けや乳酸飲料の定期購買等習慣を続けている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲームをしたり遠足に行ったり、関係がよくなるように心がけている。トラブルが起きるときは職員が仲裁に入った。自然に利用者同士が助け合っている場面もある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者が限りなく少ない。ホームから退去すると関係が途絶えてしまう。併設の事業所に移動した方の様子はうかがうようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間の共有や会話を心掛け、希望や意向を把握し環境作りにも努めている。できない時は家族の協力を得ている。本人の意向ではなく、職員優先になっていしまうことが時々ある。	アセスメントは半年毎に更新しています。利用者と「一諸にやるんだよ」ということがなかなか理解できず、つい手を出してテキパキと作業としてしまう職員も未だいるため、管理者が個別対応やパーソン・センタード・ケアへの呼びかけをおこなっています。	「やりたい」が表にでてこない利用者が大半なようですので、入浴や散歩、食事の時間を利用してリサーチが進むことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にシートに記入してもらって情報収集に努め、好みに合ったものを提供している。日々の会話の中でさらに得た情報をシートに追加していくまでには至らない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、心身の状態を記録に残し連携できるように努めた。しかし、まだ職員主体の生活になっているようにも思うところもある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング実施し現状に即している。	介護記録は時間経過毎に(D(データ)R(結果)A(アクション))の記号を用いて把握しやすい記録の取り方ができているモニタリングが日々おこなわれ、カンファレンスを経て計画作成担当者が介護計画書を作成しています。	2表のサービス内容を把握しきれず介護記録への記載に苦慮する職員もいるとのことですので、負担軽減できる工夫について協議が進むと、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を活用し他の職員の知恵をもらい実践に活かしたり、話し合いの場を設け見直しに活かしている。しかし、記録自体が少ない時がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険として福祉レンタルができないので一般レンタルとして貸与を受けたケースもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	選挙に出かけられる人には行ってもらっている。安全な暮らしを支援しているが地域資源の把握はできていないので支援不足と思われる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に基本家族で行っていただく。場合によっては情報報告用紙を持っていき対応してもらう。	全員がかかりつけ医を継続しています。基本的には受診支援を家族がおこなう為、必要であれば書面を預けたり、職員が同行するなどして適切な診断が得られるよう支援しています。また家族が海外に住む人や仕事の事情で難しい人は職員が全面的にサポートしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々看護師と情報交換連携をとり、変化時の対応につなげられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師と連携をとりスムーズな入退院となるよう努めている。退院後、本人の居室の環境づくりや生活について、家族・職員間で相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期になった時の話は家族にしている。今日現在該当する方は1名もいなかった。	契約時に「(医師と家族の協力が得られないと看取りは難しいことを前提に)看取りをおこなう事業所である」ことを説明し、延命治療等の書面も交わしています。常勤看護師もいて、職員の安心感を支えています。	利用者のかかりつけ医が重度化や看取りで往診くださるか、の状況確認が整うことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	嘔吐時の対応訓練は行っている。他には勉強会を持つことはなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年4回の訓練計画はある。実際訓練したのは1回のみなので、全員が身につけたかは分からない。地域との連携体制ができていない。	机上訓練1回、法人の消火訓練1回に事業所単独の日中想定訓練を終え、消防署職員からは「きびきびと動いていたが笑顔があったのは難…、集中して欲しい」と耳の痛い指摘を受けていて、来月予定の夜間想定訓練に挽回を図ることとしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の事を尊重し、人生の先輩という意識を持ちケアをするよう心掛けているが、時々慣れ合いの言葉になることがある。又、暴言が出てしまうことがある。	浴室の扉にはプライバシー保護のカーテンが付けられ、また居室前の表札は「視察や見学で来所した人が本人を知っている人では…」との職員配慮から(利用者にとって不便がないと確認したうえで)外されています。希望に応じての同性介助もおこなえています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いが言えるような状況作りに努めている。又、入浴時の服を選んでもらう、好みの入浴温度、嗜好飲料選択を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の日常的なことを見つけられるように支援しているが、職員本位の支援になってしまうこともしばしばある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月上旬に理容師が来る。本人の希望を聞きカットしている。男性の髭剃りを忘れてしまうがモーニングケアには時間をかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作り、盛り付けや配膳、片づけを行っている。個々の「何ができる」を見極め行っている。	開所1年ということで「少しでも職員負担の軽減を」と、本体の調理室から主菜が届いています。ご飯、味噌汁、副菜は職員手作りで、利用者とも「短冊?」「いちよう切り?」と掛け合いしつつ、食事作りから楽しむ日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のしやすい環境づくりや声掛けをしている。食事摂取量を記録している。個々に合わせた水分摂取量		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け実施しているが、毎食できないことはある。なるべく自力でやっていただきその後仕上げ磨きをしている。自立の方の支援不足している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中自立パンツ、夜パット使用しトイレ誘導や尿多い方のパットの種類の検討等その方に合わせた支援している。定期的にトイレに誘い、座る位置にも配慮している。	排泄チェック表をつけ職員も気配りしてはいますが、入居時に布パンツまたはリハパンツとパッドのみという人ばかりだったということもあり、向上は無く維持に留まっています。現在は必要とする人はいませんが、トイレは背もたれやアームレストも付いています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール必要な方には看護師と連携をとっている。起床時牛乳を提供し、散歩やテレビ体操、歩行訓練をしているが便秘解消に向けた運動の取入れがない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けに工夫し週2回入浴している。意に添わない時は無理強いせず、本人の希望を聞きつつタイミングを計り、支援できる環境づくりをしている。職員本位になっていることもある。	小規模多機能事業所が併設されていることもあって浴槽が5つあります。5つの内2つは機械浴で、椅子のままと、リクライニングでの入浴が叶うよう配されていますが、現在利用するのは2名のみです。ゆず湯等のかわり湯もおこなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に臥床、就寝している。支援が必要な方にはその方のタイミングに合った入眠の誘い方をしている。鍵をかけ居室で自由な時間を過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳で情報が分かるようにしている。薬の変更時には情報を共有し記録に残している。薬の作用については把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った趣味や楽しみを提供、集団で参加できる活動の提供をしているが十分な余暇支援に至らない。家族から嗜好品を預かる。新聞がいつでも読める環境		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体制上「今すぐ」という対応ができないが、希望で預り金で買い物に行くことができる。家族支援による外出はできている。遠足を実施し外出や買い物ができる。	過ごしやすい春秋での中新井池の散歩は定番です。また秋の遠足には家族も誘い6名の参加を得て「なぶら市場」に出かけています。日常でも不足なものがあったり、希望があれば買い物にも出ています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は限度額を決め希望者は預かっている。そして希望時に買い物で使用した。病院受診で家族がいけない時にも預り金から支払いをした。受診以外で使用する頻度は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやり取りはできるようにしている。手紙を書きたいと要望があった際に葉書を見に行ったり文面を考えたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出る置物を共有スペースに置いたり、洗濯物をテラスに干したりした。温度調節や清潔保持のための掃除を実施。のんびり過ごせるような支援をしている。	日差しが足元に優しく注ぎ、また雨だれが落ちる様子も眺めることができるよう設計された和モダンな造りで、大変落ち着く空間です。13時からの遅出の勤務者が掃除担当で、床や手すりを洗浄液を希釈して丁寧に掃除していて大変清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにいなければという考えではなく、自由に動いて頂き見守りしている。本人の過ごしやすい場所の支援に努めている。廊下に椅子を置きくつろげる環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から家具を持ってきてもらったりして使いやすく居心地良く過ごせるよう工夫している。利用者は自分の部屋であることを理解している。本人の食器で食べていただいている。洗濯物も自分の居室に干している方もいる。	洗面台、エアコン、チェストとベッドが予め備わっています。赤外線温熱器や自分が選んだという洋服筆筒、以前から使っていた椅子を持ち込み、また毎日の暮らしのなかでメモしたもの、知人から届いた葉書き、年賀状等書面類をひとまとめに集積している居室もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーなので安全に生活できるようになっている。トイレがいくつかあり安心して使用できる。清掃用具など目の入る場所に置き、利用者がいつでも使用できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400091		
法人名	社会福祉法人 大須賀苑		
事業所名	グループホーム 野楽里 (東の里)		
所在地	静岡県掛川市大淵12680-1		
自己評価作成日	平成30年1月16日	評価結果市町村受理日	平成30年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2297400091-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>静かな環境(自然豊か、日当たりが良い) 利用者方の意に添えるよう、個性を生かせるよう支援している</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日差しが足元に優しく注ぎ、雨だれが落ちる様子も眺めることができるよう設計された和モダンな造りで、大変落ち着く空間が在る事業所です。リビングから見える窓枠からは、以前には天然記念物の蓮の葉も生息していたとの中新井池が一望でき、舞い降りる鳥の観察も楽しいなことが覗えます。職員はおやつ、行事、掃除と担当を持つことになっていますが個別ケアの係が進んでいなかったり、全体会議の実施が中断していたりと、開設初年度の産みの苦しみもあるなか、「できていないこと」に真摯に向き合い、省みる謙虚さと朗らかに突き進むプラス思考があり、今後の前進が大変楽しみです。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症があっても穏やかに安定した生活を送れる」ように「ともに時間を過ごす事で利用者の思いを感じることができる」という目標を掲げている。文書として職員には配った。ともに過ごすよう心掛け利用者の声を拾うようにしている。理念・目標の浸透は足りないと思う		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の慰問、併設の保育園児との交流、福祉委員の運営推進会議の出席はある。地域とのつながり、施設から地域への発信はなく今後の課題である		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練時、運営推進委員の方に見学はしてもらった。地域貢献の取り組みがなかった。地域とのつながりほぼなく、面会が少ない。発信が少ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、実績報告・法人としての感染症対策の取り組み、防災に関する事などを報告しご意見をいただいている。現場への報告ができていない		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が事業所連絡会と部会、グループホームの研修に参加した。市の方には運営推進会議に参加してもらっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県に身体拘束ゼロ宣言している。法人の研修に参加できなかった。身体拘束にならないよう不安なときは職員に確認している。スピーチロックにならないよう心掛けているが、つい出てしまう。スピーチロックではないかと感じることもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修に参加できなかった。注意不足はある。言葉の暴力に聞こえる時があるが注意できないこともある。監視カメラは常時作動している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会していない。言葉としては聞いたことがあるが具体的に分からない職員が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身元引受人に重要事項の説明をし、理解していただいで契約としている。かかわらない職員は仕組みが分からない人もいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、担当がいれば担当のほうから声をかけ情報共有している。家族の要望や意見を聞いた後、反映されているか確かではない。意見箱を設置していない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ではないがユニット会議の実施。問題があるとその際のいきさつを聴かれることがある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の対応をしている。誕生日休暇、厚生休暇などがありリフレッシュできる。有給休暇が取れるよう配慮して頂いている。2部署を掛け持ちしている職員は中途半端になっていると感じている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修参加。リフレッシュ体操への参加。管理者の指導は少ない。又、グループホームでの勉強会はない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は掛川市が開催する事業所連絡会・部会に参加している。実践者研修に1名参加。他の職員は実施できなかった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と話をし良い関係づくりができるよう努めている。又、日々寄り添い傾聴する中で、思いを聞き逃さないようにしている。そして安心できるように声掛けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、担当がいれば担当のほうから声をかけ情報共有している。家族の要望を聞き近づけるように努力している。反面、他の利用者に対応しながらでは真の思いまでは聞き取れない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントなどから本人の今必要なことの見極めはできていて適したサービスの対応に努めているが、職員の思いと家族の思いが違うので一方的になケアになっていると思うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等日常生活の出来ることを、本人の意に沿いながら一緒に行っている。意見や声がかかりやすい立場になれるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を大切にしている、様子を伝え共有している。変化のある時は細目に報告や相談をしている。他に担当者会議への参加いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会が持てず支援できていない。なじみの場所・人を訪ねるが本人から話されることは少ない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの席の配慮、協力できるテーブルの配置、孤立にならないような支援。行事や遠足で関係づくりなどの支援に努めている。利用者個々の考えやレベルの差があり難しく支え合うこともまれにあるが、受け入れられず冷たい目線になることがある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者が限りなく少ない。ホームから退去すると関係が途絶えてしまう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	やりたいこと、やりたくないことは様子で把握して生活に取り入れる努力はしているが、把握できていないことも多い。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に聞いたことを記録に残している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設サービス計画や記録などを見ながら情報共有している。個々の過ごし方を見ながら状態の変化に気づけるようにしているが、刺激がもっと必要かと思う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング実施し現状に即している。職員からいろいろな意見を聞き「とりあえず行動してみる」から行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子が分かるよう、少しの気づきでも記録に残すよう努めているしノートも活用している。しかし、すべての職員が細かな記録となっているわけではない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況が変化していれば家族に説明し福祉用具を上手に使えるよう説明している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内での実施が大半で地域資源を使っていない。又、地域資源の把握ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に基本家族で行っていただく。場合によっては情報報告用紙を持っていき対応してもらう。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々看護師と情報交換連携をとり、変化時の対応につなげられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師と連携をとりスムーズな入退院となるよう努めている。退院後、本人の居室の環境づくりや生活について、家族・職員間で相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期になった時の話は家族にしている。今日現在該当する方は1名もいなかった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	嘔吐時の対応訓練は行っている。他には勉強会を持つことはなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の訓練計画はある。実際訓練したのは1回のみなので、全員が身につけたかは分からない。地域との連携体制ができていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の事を尊重し、人生の先輩という意識を持ちケアをするよう心掛けているが、時々慣れ合いの言葉になることがある。又、暴言が出てしまうことがある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いが言えるような状況作りに努めている。又、入浴時の服を選んでもらう、好みの入浴温度、嗜好飲料選択を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	過去の生活環境と大きな変化がないように支援するようにしている。活動では個々に合った活動を考えやりたい方、見ているだけの方などに合わせるよう心掛けている。なるべく希望に添えるようにしているが、どうしても時間やペースを職員に合わせていただくことがある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを鏡の前で、その方と見ながら行うよう心掛けている。あきらめている方もいるので、身だしなみには気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は準備、片づけを、その日の状態でやれること考え一人一人に合わせて実施している。昼食は職員一人と一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な利用者には水分チェックをし、ストレスなく飲水できるように回数やゼリーに代替しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	意に添わずできない人もいるが、取り組んでいる。毎食後ではない。就寝前に行っている。自立の人は支援に入れない傾向である。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導する方もいるが、トイレの兆候を見逃さないようにすることで、その人に合った支援ができています。その人・その時間に合ったパットの使い方をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分の提供や、必要時下剤の調整を行っている。排便の記録管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を声掛けに工夫して対応している。入浴に気が乗らない方には、時間を置いたり職員を替えて誘っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時間に就寝されている。必要であれば添い寝をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員間で共有するようにしているが完璧ではない。かかりつけ医の指示に従い服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	心穏やかでいられるような、役割を感じてもらえるような活動を心がけている。意に添うように促すが「なんでもいい」と話されることが多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	下肢筋力の衰えを気にかけている方へは戸外散歩を職員と共に実施している。遠足時には家族の参加もあった。(全員ではない)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は限度額を決め希望者は預かっている。そして希望時に買い物などで使用した。病院受診で家族がいけない時にも預り金から支払いをした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけれるようにしている。手紙の支援はやり取りしたことがない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出る置物を共有スペースに置いたり、不快にならないよう、ごちゃごちゃしたものは置きすぎないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人自分の居場所を感じているのか、思い思いに過ごしていただいている。個々の部屋もそれぞれに合わせた空間になっている。気の合った仲間同士の動きがほとんどない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から家具を持ってきてもらったりして使いやすく居心地良く過ごせるよう工夫している。利用者は自分の部屋であることを理解している。利用者によっては、部屋に入りにくく確認できない方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーなので安全に生活できるようになっている。安全な環境づくりをすることはやっていた。状況によっては、できることはわかっているが支援が重なったりすると、できることを見守りできないことがある。		